



平成8年3月



学校週五日制と学校教育

昭和女子大学教授 熱海 則夫

我が国の学校もいよいよ本格的な週五日制時代を迎えようとしている。

改めて述べるまでもなく、この学校週五日制の導入は、これまでの学校制度の歴史にてらしてみても、きわめて画期的な改革である。それだけに、今回の導入を単に社会生活の変化に対応する制度上の改革であるという皮相的な受け止め方ではなく、このことは同時に、これまでの学校観の転換と生涯学習的な視点に立った新しい教育体制の構築を目指すものであるという認識をもつ必要がある。とりわけ、学校関係者については、この際、学校万能の古い学校観を改め、学校週五日制にふさわしい新しい学校づくりに向けて、その改善、充実に努めることが求められているのである。特にその中心的な課題となるのは、教育課程及び学習指導の質的な改善である。

学校週五日制は、基本的には、従来より教育時間は減少するし、子どもの学校での生活時間も少なくなる。それに伴って教育内容の量的な削減は、免れ得ないであろう。しかしながら、一方において、例えば個性を生かす学習、問題解決的な学習、体験的な学習など今後も求められている学習者主体の新しい学習方法は、これまで以上の教育時間を必要とす

るし、社会の変化に対応して例えば、国際教育やボランティア教育などの新たな教育内容の導入も考慮せざるを得ないだろう。

このような実状を考えれば、学習指導要領段階における教育内容や授業時数の改善とならんで学校における教育課程や学習指導の在り方の抜本的な見直しが必要である。その際、教育課程に関連しては、これまでのような教科書カリキュラムにとらわれず、その後の学習や生活に生きて働く力を育てる上で必要な教科内容（教材）を精選して編成することや教育時間をできるだけ確保するための学校運営の工夫改善などが課題となるであろう。

また、学習指導については、学習の効率を高めるための教授組織の工夫と相まって、子ども主体の学習を一層すすめるとともに、例えば、学習の転移の容易さを考慮して方法知的な指導を重視したり、子どもたちの自己学習を促すモチベーション的な指導を取り入れることなどが課題として考えられるであろう。

いずれにしても、学校週五日制は、家庭及び地域社会の密接な連携のもとにこのような子どものための新しい学校づくりが進んだときに初めてその成果が高まるものであるということを再認識することが必要である。

研究紹介

中学校技術・家庭科「電気」領域の指導効果を高める教材の開発 —動画をとり入れた学習ソフトの開発と試行—

広島市教育センター指導主事 江田 英俊

はじめに

「電気」領域の実習を支援する教材・教具の工夫に視点をあて、生徒が自ら疑問や課題の解決を目指すことができる学習ソフトの開発を行いました。

学習ソフトの開発にあたっては、技術・家庭科教育担当の教師を対象として、「電気」領域の指導にかかわる実態調査を行うとともに、授業実践を通して開発した学習ソフトの有効性を探りました。

1 学習ソフトの開発

コンピュータで動画を編集・保存・再生する機能を利用して、動画と文字による学習情報の提供を試みました。開発に用いた機器の構成を図1に示します。

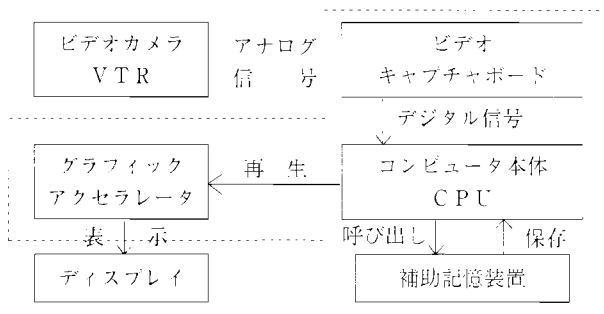


図1 機器の構成

2 学習ソフトの作成

動画をとり入れた学習ソフトの作成はWindows

3.1上で①～⑤のような手順で行いました。

- ① コースウェアの作成
- ② ビデオ撮影
- ③ ビデオ映像のコンピュータへの取り込み
- ④ 映像データの編集
- ⑤ 教材作成支援ソフトによる学習ソフトの作成

開発した学習ソフトのコースウェアを図2に示します。

3 学習ソフトの画面例

生徒が選択するメニュー画面例を図3に示します。動画による学習情報は、メニュー画面の左下に1/4の大きさで示されています。

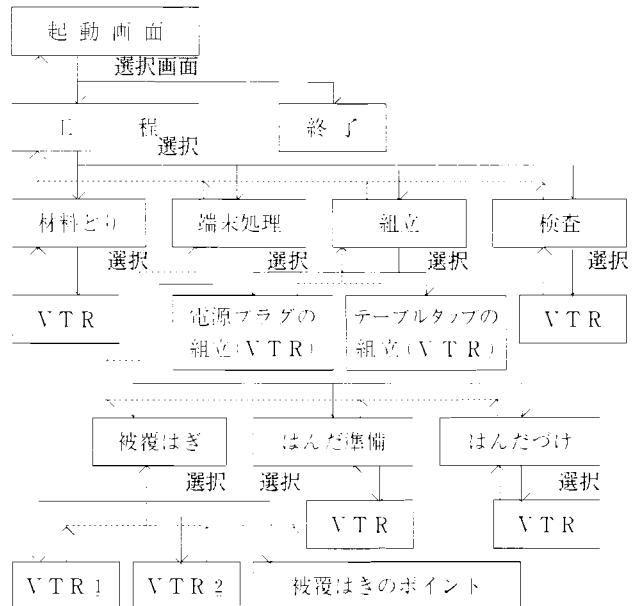


図2 開発した学習ソフトのコースウェア

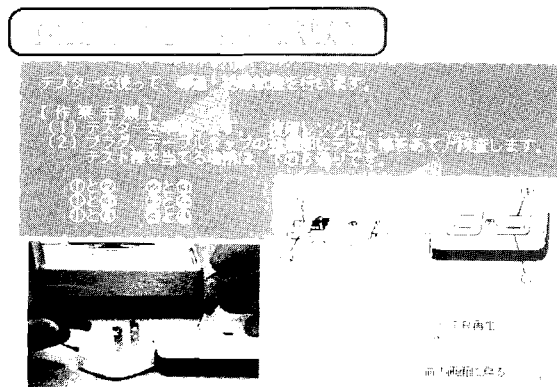


図3 「検査」のメニュー画面

4 開発した学習ソフトの成果と課題

開発した学習ソフトによる授業実践から、マルチメディア型の学習ソフトを活用して学習活動を支援するコンピュータの新しい活用の在り方を探ることができました。今後は、動画による学習情報に加え、音声による学習情報の提供ができる学習ソフトの開発を図りたいと考えています。

(平成7年度広島市教育センター研究紀要 第15号より)

教育実践に取り入れてみましょう

「身近な自然を調べる環境教育」

理科(小)

学校では、児童生徒の発達段階に応じて環境に関する学習が行われています。その主な内容は、地球の温暖化、オゾン層の破壊、ごみの増加、水質汚染等があります。小学校の理科では、第6学年に「水よう液の性質」という単元があります。ここでは、いろいろな水溶液を使い、その性質や変化を調べることができるようにすることがねらいです。「雨水は何性？」という児童の疑問から雨水が強い酸性を示す場合があることを実験して確かめることにより、環境に目を向けさせる身近な環境教育の教材の一つとなります。環境教育を進めるにあたっては、環境教育指導資料〔小学校編・事例編(文部省)〕等を参考にし、環境教育についての理解を深め、創意工夫を生かした取り組みが今、望まれています。

「コンピュータを利用した造形表現」

美術科(中)

各学校に整備された機器や「ハイパーキューブ2」を利用して、美術科の授業にコンピュータを利用した造形表現を取り入れてみませんか。

具体的な指導内容としては、構成や配色のトレーニング等が基本になりますが、グリーティングカードやポスターのデザインに応用したり、アイデアスケッチに利用したりすることも可能です。コンピュータを利用した造形表現の利点は、簡単なマウス操作で瞬時にイメージした色や形を表現してくれることです。生徒はポスターカラーの平塗りや溝引きなどの技法から解放され、何度でもやり直して表現できるので造形的な満足感を十分に味わい、楽しく学習することができます。

「オーラル・コミュニケーションC」

英語科(高)

「オーラル・コミュニケーションC」の言語活動の中心は、説得力のある話し方を要求されるスピーチと、討論のための論理的思考力などが要求されるディベートです。どちらも、公の場で自分の考えを聞き手が理解しやすいように筋道たてて話さなければならないものです。これらで身に付けた言語技能は、論理性を重視したニュースの聞き取りや読解力、日常の会話における技能にも大いに役立つのではないかと思います。しかし、平成6年度の「オーラル・コミュニケーションC」の開講状況は、全国的にみてわずか5%（国立教育研究所調査）であり、国際的に通用するコミュニケーション能力の育成を目指す英語科教育の観点からすれば、これから開講をする学校数の増加が望まれるところです。

「指導目標の明確化」

教育学

教育学はどのようにすれば教育効果が最大になるかを研究する分野です。

つまり、「単に、実践しました」というのではなく、授業の設計・実施・評価を行い、その結果をフィードバックして授業を実践的に改善していく分野であるということが出来ます。したがって、教育学を实践するための第1段階は授業設計であり、特に指導目標を明確化することが大切です。それには、指導目標を達成したかどうかを測定できるように、「…ができる」という表現をする必要があります。このように表現された指導目標は評価問題作りを可能にし、フィードバックや授業改善にもつながります。

指導目標を明確化するところから、教育学を实践してみませんか。

話題の広場

教育用ソフトウェアライブラリ

～システムと利用方法～

4月からの稼働開始を目指して準備している教育用ソフトウェアライブラリのシステムや利用方法について紹介します。

教育センターに構築する教育用ソフトウェアライブラリのシステムはサーバーとそれにつながるクライアントと呼ばれるコンピュータから成り立っています。

サーバーには広島市中央図書館や他の教育関係機関と通信をするためのサーバーⅠと教育用ソフトウェアや教育センターが所蔵する教育関係資料等の情報をデータベース化して一元管理するためのサーバーⅡがあり、システムの中核的な役割を担っています。

クライアントのコンピュータは20台あり、サーバーとLANで結んでいるため、どのコンピュータからも広島市中央図書館が所蔵する図書、教育用ソフトウェア、教育関係資料の検索をすることができます。

このシステムの全体を表したものが図1です。

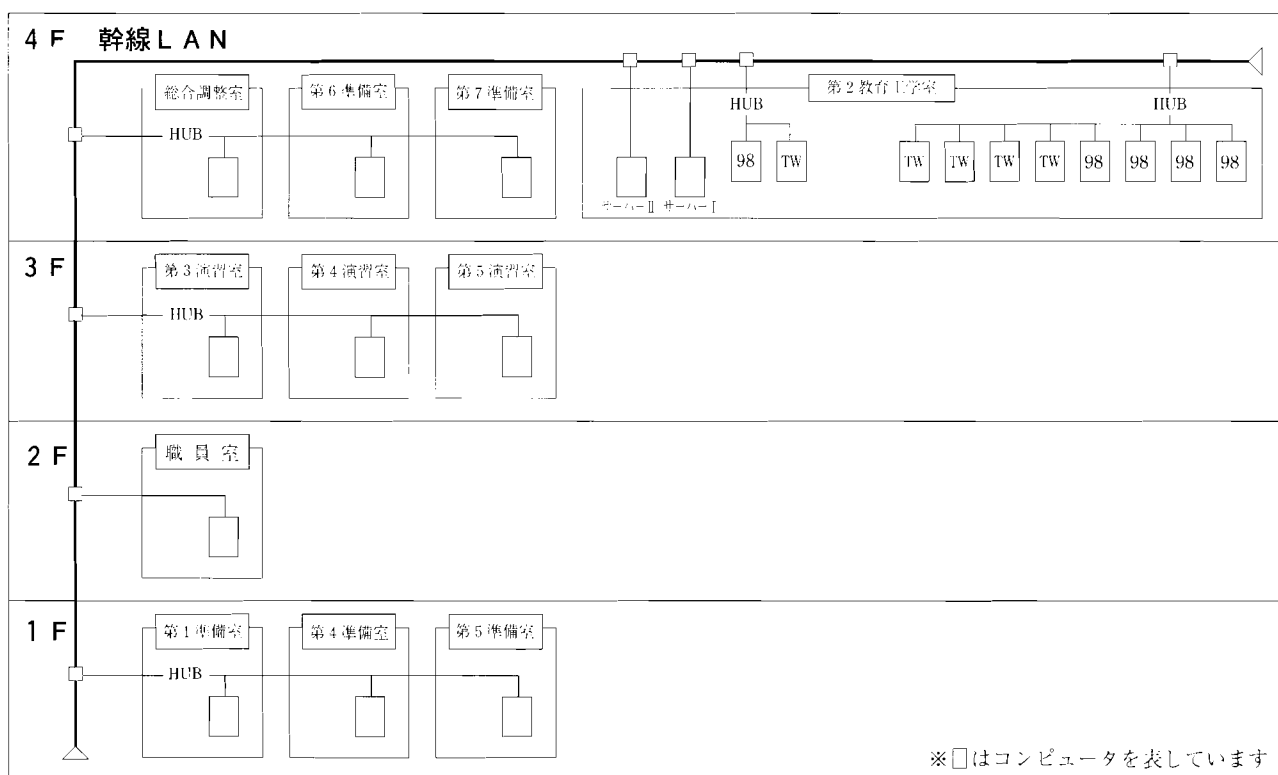


図1 教育用ソフトウェアライブラリのシステム構成図

このシステムの中心の場所が第2教育工学室（ソフトウェアライブラリ室）です。ここにはサーバー2台とコンピュータ10台を設置しています。コンピュータ10台のうち2台はソフトウェアの開発や教育用ソフトウェアライブラリの受付業務等を行うためのもので、8台はソフトウェアを実際に試用するためのものです。

また、演習室や準備室等にもコンピュータを合計10台設置し、随時研修に来所した方々が教育用ソフトウェアライブラリを利用できるようにしています。

次に教育用ソフトウェアライブラリの利用の仕方を説明します。

図2はソフトウェアライブラリ室(仮称)の模式図ですが、教育用ソフトウェアの試用を目的にこられた方々はまず受付カウンターで受付を済ませてください。その時、どのようなソフトウェアを探しているかを職員に相談してください。(①)

職員は、その情報を基に教育用ソフトウェアのデータベースから検索をし目的のソフトウェアがインストールされた試用用コンピュータを示すか、あるいはそのソフトウェアを渡しますので、受け取り試用用コンピュータに移動してください。(①→②)

次に指定されたコンピュータでハードディスクから、又は受け取ったFDやCD-ROMからコンピュータを起動しソフトウェアの試用を行ってください。(②)

試用後はFDやCD-ROMを返却し退室してください。(③)

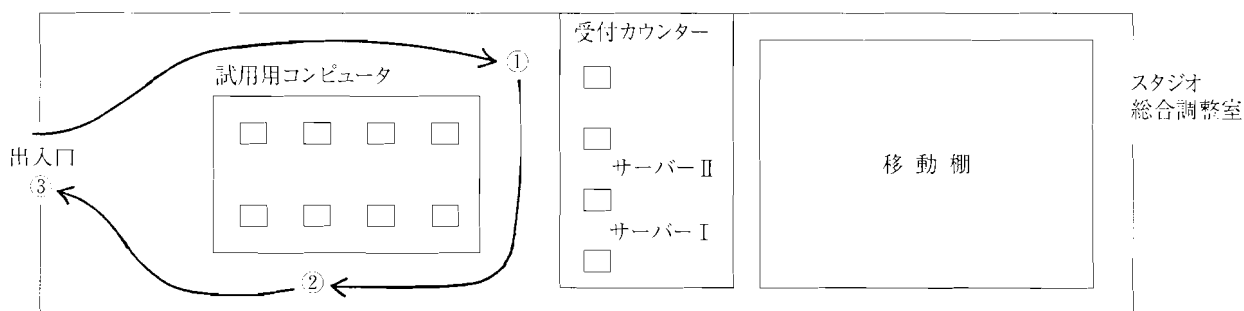


図2 ソフトウェアライブラリ室(仮称)

分からないことがあれば、ご遠慮なくセンター職員に相談してください。

教育研究資料・視聴覚資料をご活用ください

教育センターにおいて収集・整備している教育研究資料・視聴覚資料についてご紹介します。これらは図書資料室並びに第2教育工学室に配架しておりますので、ぜひご活用ください。

教育研究資料

教育研究資料は、教育関係者並びに各学校、園、社会教育施設、教育研究機関における教育研究や教育実践記録等です。教育センターでは、これらの資料を次のA～Lの分類基準で整理・配架しています。

- | | |
|-------------|---------------------|
| A 教育一般 | G 教科・領域 |
| B 教育原理、教育思想 | H 幼児・初等・中等・高等教育 |
| C 各国の教育、教育史 | I 障害児教育 |
| D 教育行財政 | J 教育調査法、教育研究法、教育統計法 |
| E 学校経営・管理 | K 教育と社会 |
| F 教育内容、教育方法 | L 社会教育 |

なお、各分類には細分類基準を設けて、利用者が容易に検索できるようコンピュータに登録・管理しています。

視聴覚資料

視聴覚資料は、教育映画フィルムとビデオ教材を主としています。平成7年12月現在の所蔵資料数は次のとおりです。

16ミリ映画フィルム	292本
8ミリ映画フィルム	34本
市販ビデオ教材	565本
自作ビデオ教材	249本
コンセプトフィルム	14本
スライド	17本

視聴覚資料は第2教育工学室・総合調整室で視聴することができます。貸出しは個人・団体ともに3点まで1週間以内となっています。

講座紹介

学習指導講座



今年度は、「個に応じた学習指導」を主題に取り上げました。2日目には、チームティーチングを取り入れた授業研究を小、中学校別に行い、具体的な指導法について研修を進め、大変好評でした。来年度も引き続き同じ主題で実施し、チームティーチングの授業研究も行う予定です。

学級経営講座



今年度は、学級経営の基本的事項や心構えについての講義に続き、「人間関係づくり」という内容で学級づくりや行事・学級通信などの取り組みについての実践発表・協議を行いました。来年度は、「児童生徒理解」という内容で、一人一人を大切にした学級経営の取り組みについて研修を行う予定です。

帰国・入国児童生徒教育講座



今年度は、課題である帰国・入国児童生徒への日本語指導を取り上げました。日本語のアクセントや文字の規則性を踏まえた指導の在り方についての講義・演習と日本語学級でのカード遊びを取り入れた授業を行いました。来年度も引き続き「日本語指導の在り方」を中心に講座を計画しています。

社会教育講座(2組)



今年度は、高齢者問題を取り上げました。高齢社会の特徴や課題についての講義と公民館における高齢者対象事業や高齢期準備教育プロジェクトの取り組みなどの実践発表でした。今後の高齢者対象事業の方向や具体策についてのグループ協議も熱心に行われました。来年度は「生涯学習とボランティア」について考えます。

来年度もぜひご参加ください！

— 教育相談室から —

Q おこたえします **A**

《かんしゃくを起こす子ども》

Q 小学校2年生の子どものことです。学習中、機嫌よく活動していると思ったら、突然床にひっくりかえり泣き叫びます。「だいじょうぶだから起きておいで」「もう泣くのをやめなさい」と声をかけても泣きやまないので、ますます悲鳴が激しくなってしまいます。どのように指導すればよいのでしょうか。

A このようなかんしゃくが起こる要因として、様々なことが考えられます。自分のペースで学習活動をしているときは安定していますが、イライラしたり自分の思うようにならなかつたりするとき、また、まわりからの刺激を受けやすいために、その刺激をうまくコントロールできないときにかんしゃくが起こると考えられます。予定の変更や環境の変化に対して、強い不安を感じて起こることもあります。このような子どもには、次のような対応が必要です。

○ 子どもの行動をよく見る

どうしてかんしゃくを起こすのか、冷静に行動を見る必要があります。かんしゃくが起こる前や起こしているとき、治まったときの様子をよく見ることによって、かんしゃくの原因や起こりそうなきを推測することができます。

○ 落ち着いた態度で接する

かんしゃくを起こしたときや起こしている最中に示す、まわりの教師や子どもたちの反応の仕方によっては、かんしゃくを強めてしまうこともあります。抱っこしたり大声で叱ったりすることは控え、落ち着いて見つめることにより徐々におさまることがあります。子どものかんしゃく以外の行動に対しては、子どもが気分よく感じるように接するなど、

対応にめりはりを付けることが大切です。

○ 安心できる環境を整える

周囲の雑音や色彩の強いもの、動くものなど、子どもにとって、過度の刺激になるようなものがあるときは取り除いておくようにします。また、子どもにとって目標や課題が分かりやすく、活動の見通しがもてることや教材などの提示などを工夫することなど、充実感を味わうことができる環境づくりをすることが必要です。

○ “こだわり”の行動に適切にかかわる

一定の行動にこだわり、そのパターンが崩れ不安になったとき、かんしゃくが起こりやすくなることがあります。例えば、一日のスケジュールが急に変わったりする場合です。前もってスケジュールの変更を子どもに伝えて、どのように行動すればよいか話しておきます。このように、子どもに適切にかかわることで混乱を避けることができます。

○ 行動をコントロールできるようにする

自分の思い通りにいかないことがあることや、我慢しなければならないこともあることを学習できるようにすることも大切です。「ちょっとがまんしてみよう」「○○をしてからね」と声をかけ、自分をおさえる力を育てるようにします。

かんしゃくを起こしても慌てないで、毅然とした態度で接するとともに、子どもの状況を理解して、家庭との連携を図りながら情緒の安定を促していきたいものです。

広島市教育センター 教育相談室 223-4152
いじめ110番 223-4420
教育相談室(分室) 264-0422

教育センターひろば

教育センターこの1年

『基礎講座の充実』



従来の「学習指導基礎講座」「学級経営基礎講座」に加えて、「生徒指導基礎講座」を新設して、若い先生方の研修の充実を図りました。

『コンピュータ講座の充実』



表計算ソフトの活用を取り上げた「応用V」を新設するなどして、定員を124名増やし、コンピュータ研修のニーズに応えるよう努力しました。

『平和教育講座』

被爆50周年にあたり元広島原爆資料館館長高橋昭博氏の講義、資料館見学等を通して、これからの平和教育の在り方について研修しました。

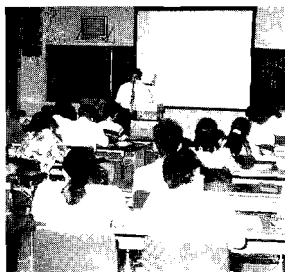


『教育用ソフトウェアライブラリ』

教育用ソフトウェアライブラリの設置に向けて準備を進めてきました。今年の4月より運用を開始する予定です。



『教育研究発表大会』



広島市教育センターの指導主事が研究した成果（教科指導 2主題、障害児教育 1主題、教育相談 1主題）を発表しました。

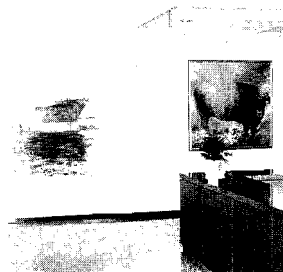
『いじめ問題講演会』



講師に静岡大学教授深谷昌志先生を迎え、「いじめ問題の解決に向けて」という演題で講演をいただきました。400名を超える方々が参加されました。

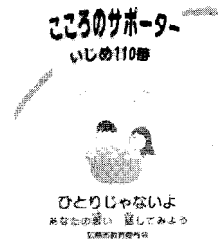
『館内作品展示』

今年度も作品展示協議会のお世話により、広島市立学校の教職員の方々の作品を館内に展示させていただきました。（絵画 21点、彫刻 7点、書 6点）



『こころのサポーター（相談機関の紹介カード）』

いじめられていてもだれにも相談できず悩んでいる子どもを援助するために、相談機関の紹介カードを作成し配布しました。



表紙絵 広島市立中山小学校校長 白石 春雄

題字 広島市立段原小学校教頭 鷺見 澄子

編 集 後 記

年度末を迎え、何かとご多用のことと存じます。今年度最後の所報をお届けします。今後の指導の充実にご活用ください。